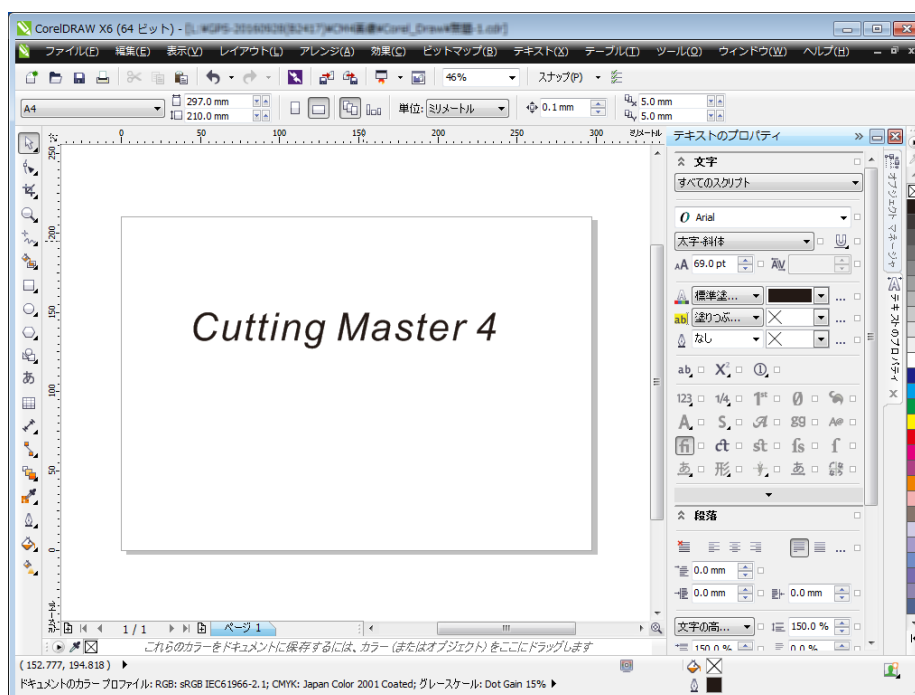


Cutting Master 4 導入操作説明書(CorelDRAW)

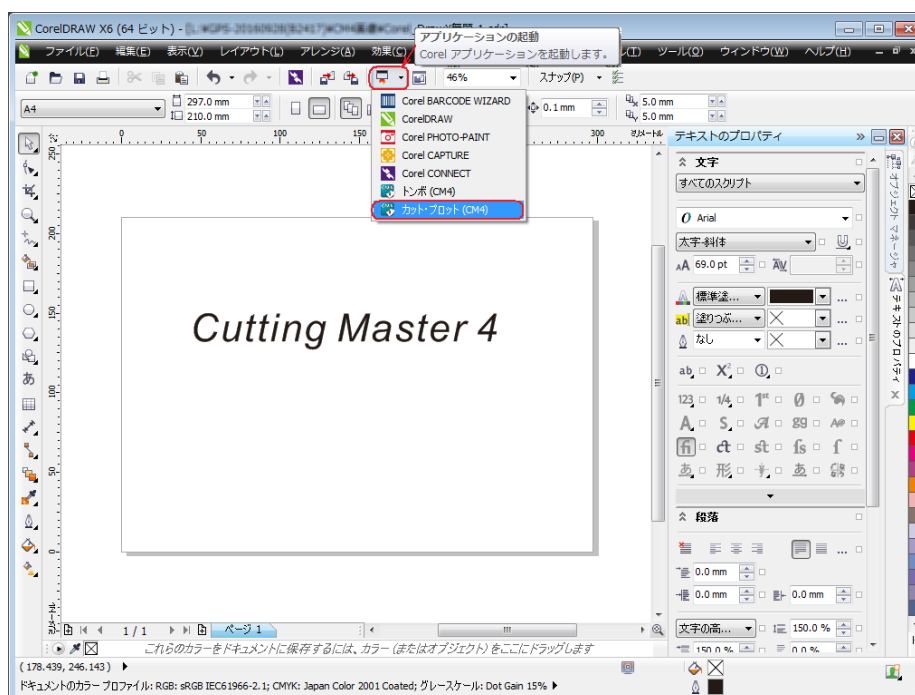
Corel社のCorelDRAWからCutting Master 4に出力する方法について以下に説明します。
 なおCutting Master 4のインストール方法については別途資料を参照してください。
 事前にプロッターとPCの接続を行い、用紙のセットを行ってください。

1. カuttingフィルムに文字切りを行いたい

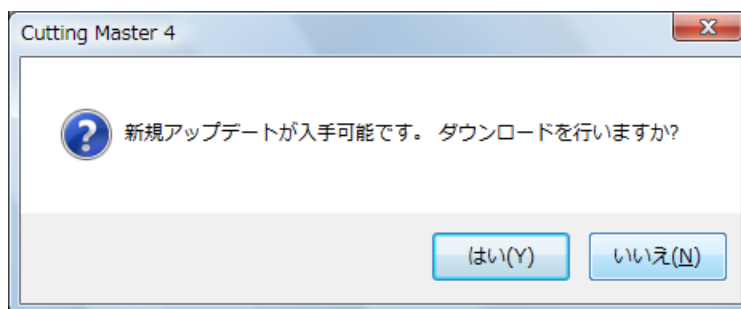
CorelDRAWを立ち上げ、カットしたい文字を入力します。



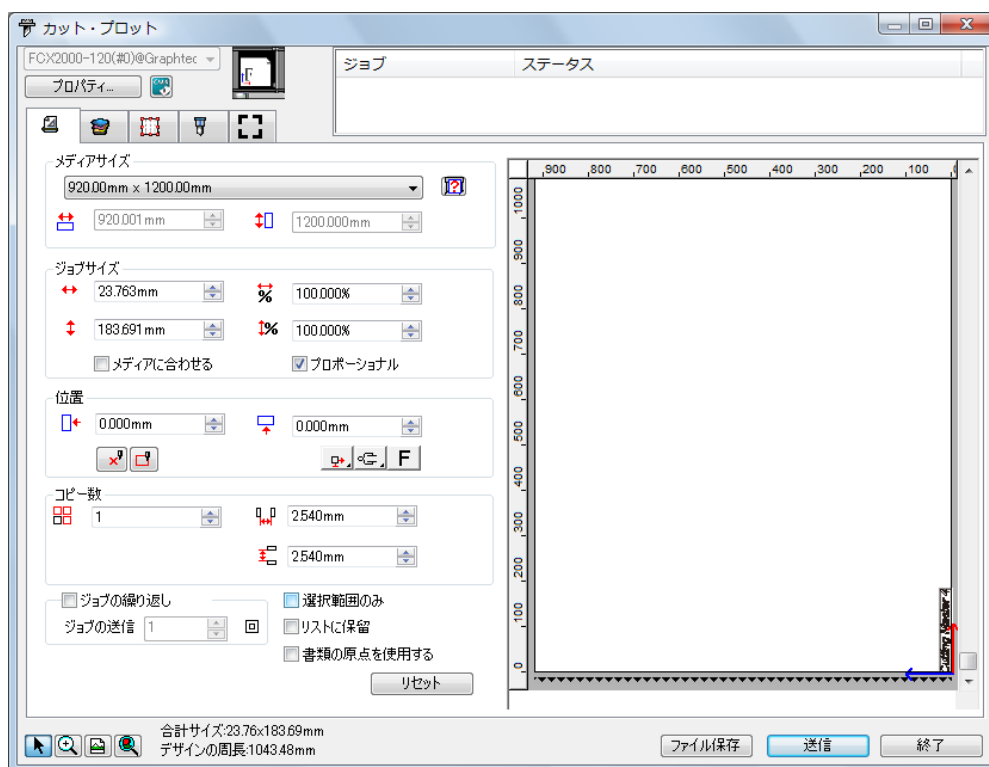
「アプリケーションの起動」より「カット・プロット(CM4)」を選択します。



「新規アップデートが入手可能です。ダウンロードを行いますか?」の表示がされることがありますが、ダウンロードを行う場合は、[はい(Y)]をクリックしてバージョンアップを行ってください。後から行う場合は[いいえ(N)]をクリックします。

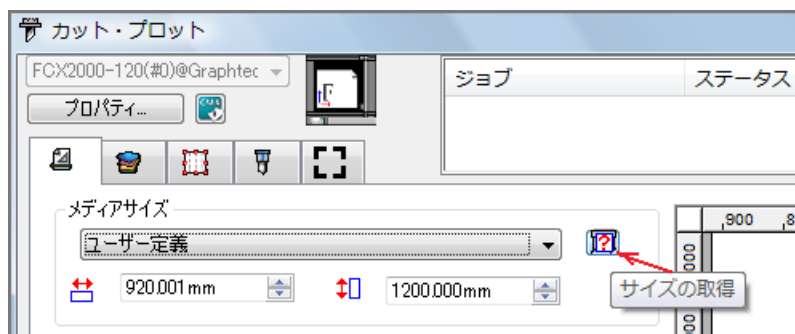


「カット・プロット」と「Cutting Master 4」が立ち上がります。



「Cutting Master 4」は、「カット・プロット」からのジョブを出力します。

「カット・プロット」画面の「一般」の中の「サイズの取得」をクリックした時、「メディアサイズ」が「ユーザー定義」に変わり、プロッターにセットされている用紙幅、長さ(ロールメディアの場合は、プロッターに設定されているページ長さ)が表示されます。フラットベッドタイプでは、プロッターの最大のカットサイズが表示されます。メディアサイズを変更したいときには、「メディア」の中の下矢印をクリックしてメディアサイズを選択します。定型サイズ以外の場合は、“ユーザー定義”を選択し、サイズを入力します。



“カッターがサイズ取得に反応しません”が表示された時は、プロッターと PC が正しく接続されていません。プロッターの電源が入っていて接続されているか確認してください。

「詳細」タブの「プロット後メディアを送る」のチェックを入れると、ロールメディアを使用している場合は、オブジェクトのサイズ+ “追加送り” の指定長さ分メディアが送られます。シートメディアの場合はメディアの交換メッセージが出ます。

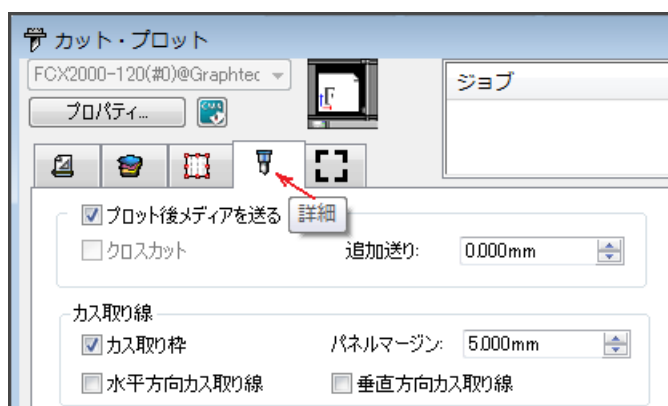
フラットベッドタイプのプロッターでは、退避モードになりカッターが右上に移動します。

「カス取り枠」にチェックを入れると文字の周りに枠がカットされます。「パネルマージン」は、文字と枠との間隔を指定します。

「水平方向カス取り線」は、文字の行間にカス取り線を入れます。

「垂直方向カス取り線」は、文字間にカス取り線を入れます。

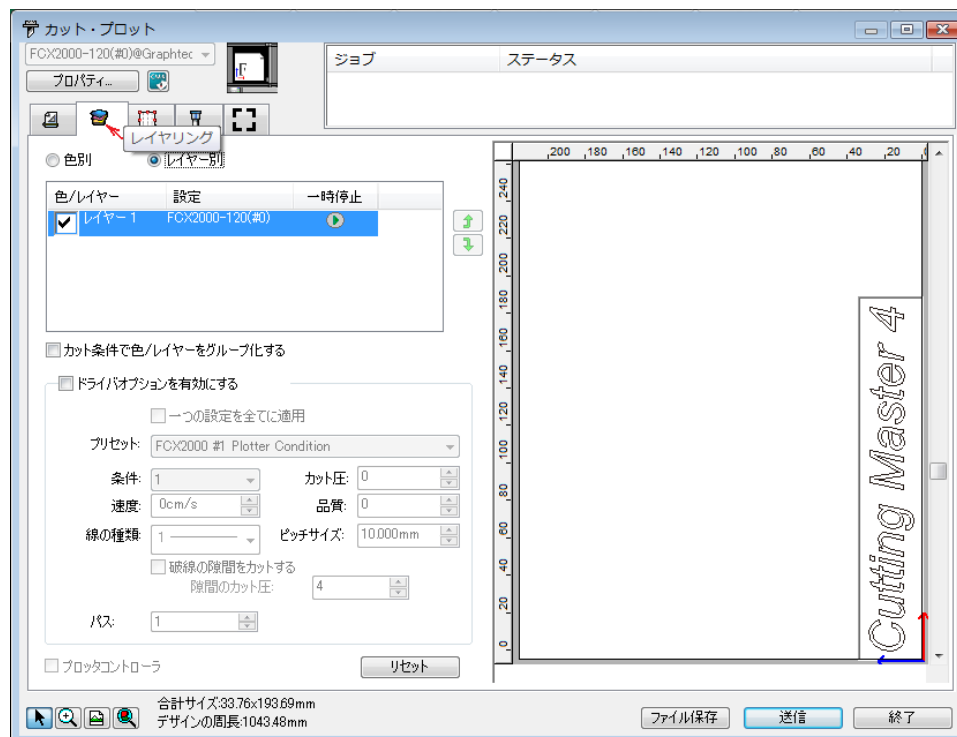
例では、「カス取り枠」にチェックを入れ、パネルマージンを“ 5mm ”に設定しています。



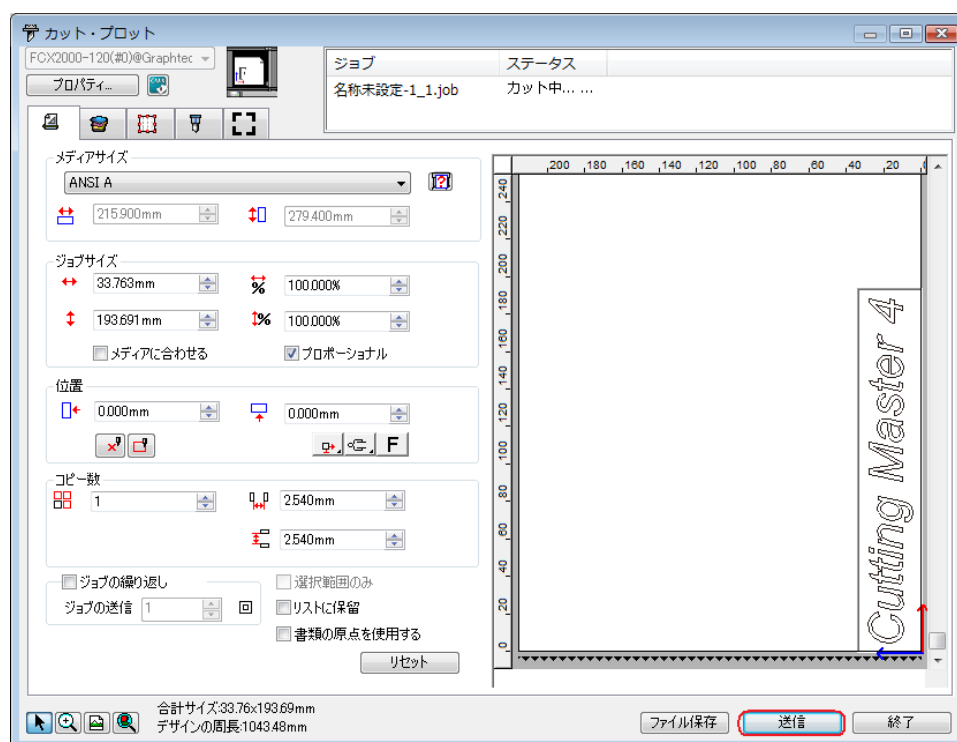
「レイヤリング」タブの中の“色別”や“レイヤー別”の選択により、色やレイヤーで分けたオブジェクトごとにカット順番やカット条件を設定することができます。

「ドライバオプションを有効にする」にチェックがされていない場合は、プロッター自体に設定されているカット条件でカットされます。

レイヤリングのそれぞれの機能については後述します。



[送信] をクリックすることで上部の「ジョブ」の中にジョブ名と「ステータス」に“カッ
ト中...” の表示が出てカット動作が始まります。



[ファイル保存]をクリックすると“ xpf ”の拡張子が付いたファイルが作成されますが、これはFCX2000シリーズでUSBメモリからオフライン出力するためのファイルになります。

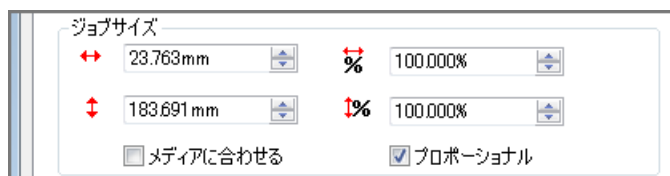
- ・下記「Cutting Master 4」が同時に開きますが、通常は、送信されたジョブが表示され、カットが終了するとジョブは削除されます(送信モードの設定により保留状態にもなります)。



2. 補足説明

2-1. 一般設定

「一般」の中の「ジョブサイズ」は、カットするデータサイズで「メディアに合わせる」をチェックすると、「メディアサイズ」で設定された大きさに合わせてカットされます。「プロポーショナル」にチェックすると縦横比を変えずにサイズが変更されます。



「位置」の値を設定することでプロッター上のカット位置を変更できます。位置の中の「対話形式」をチェックした状態で、プレビュー上のオブジェクトの位置を変更すると、プロッターのカッターの先端がオブジェクトの右下と同期して動きます。「プレビュー」をチェックすると、オブジェクトの周囲の4点の位置にプロッターのカッターの先端が順番に移動して最大に動く位置の確認ができます。

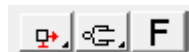


「位置」の中の「配置」は、プロッター上のカット位置を変更できます。初期状態では、右下にセットされていますが、それ以外の配置を選択することでプレビューにそれぞれ設定したカット位置が表示されます。また、プレビュー上のオブジェクトを

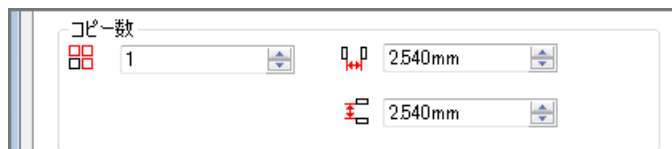
クリックしてドラッグすることで、任意の位置にカット位置を変更できます。

「回転」の設定によりプロッター上でオブジェクトが回転します。

「反転」をクリックすることにより「F」が「ヨ」に変わり、ミラーイメージ（裏書）でのカットがされます。



「コピー数」は、オブジェクトを指定された個数にコピーしてカットします。オブジェクトとオブジェクトの間隔は、「水平間隔」と「縦方向の間隔」で設定されます。



「位置」の中の「選択範囲のみ」をチェックすると、CorelDRAW 上で選択したオブジェクトのみカットプレビューに表示されます。（オブジェクトが選択されていないと「選択範囲のみ」はグレーアウトします。）

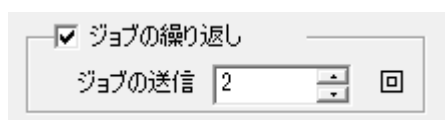
「リストに保留」をチェックすると実際にプロッターへの出力は行われずに「Cutting Master 4」にジョブを送って保留状態になりますが、後から出力できます。

「書類の原点を使用する」にチェックすると、CorelDRAW で指定した書類の原点を使用してカット位置が設定されます。



「ジョブの繰り返し」は、同じデータを設定回数送信します。このチェックを入れた場合は、同じデータを繰り返し送信します。同じデータが再度送られるので、プロッター上で同じ所を切らないようにするため、「ジョブの繰り返し」にチェックを入れると、「詳細」の中「プロット後メディアを送る」に自動的にチェックが入り、ロールのメディアを使用している時にはメディアを送ってカットします。

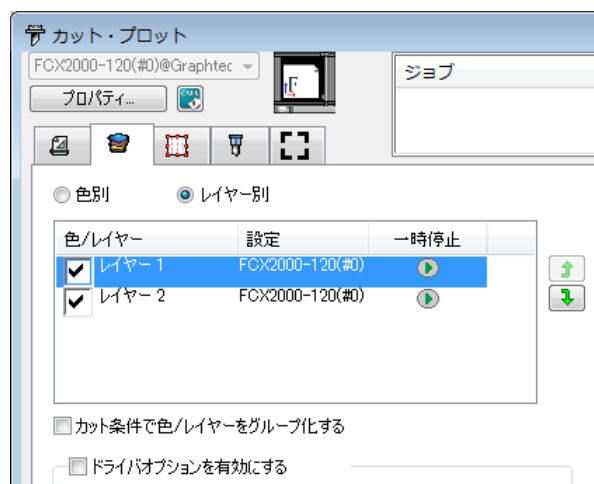
シートのメディアの場合は、メディアの交換メッセージが表示され、メディアを交換してからカットが始まります。



2-2. レイヤリング設定

「レイヤリング」タブの中の“色/レイヤー”のチェックにより、カットするレイヤーおよび色の選択を行います。

「ドライバオプションを有効にする」にチェックが入っていない場合は、プロッターに設定されているカット条件でカットされます。



「一時停止」がになっている場合は、“色/レイヤー”に表示されたリストを上から順に連続してカットを行いますが、の場合は、“色/レイヤー”ごとカットが一時停止します。

とでカットする順番を入れ替えることができます。

“色/レイヤー”のチェックを外すことでカットをしなくなります。

「カット条件で色/レイヤーをグループ化する」にチェックすると、「設定」で指定した条件が同じものどうしのオブジェクトをまとめて送信します。

「ドライバオプションを有効にする」にチェックし、“プリセット:”のプルダウンより設定したいコンディション No.(#1 ~ #8)を選択します。または、既に登録されているコンディション設定を選択します。



デフォルトでは、#1 ~ #8 の番号がプロッターの“Condition No.”と同じになっています。

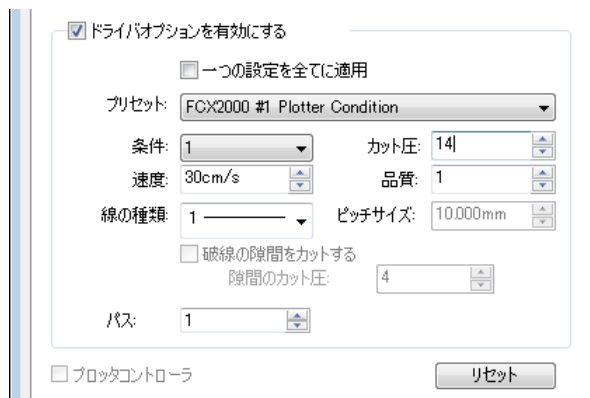
[保存]で設定した値は保持されますが、新たに名前を付けて登録したい場合は [別名で保存...] をクリックします。

「書き出し...」をクリックすると、表示されているコンディションの設定内容を“ xml ”形式のファイルとして保存することができます。

[読み込み...]をクリックすると保存したコンディションの設定内容を読み込むことができます。

“条件:”は、設定したいプロッターの“ Condition No. ”を指定します。

“カット圧:”、“速度:”、“品質:”の値を入力すると、プロッターにその値が設定されますが、値が0の場合は、プロッター本体に設定されている値が有効になります。



“線の種類:”は、実線や波線等の線種指定ができます。実線以外を設定しますと“ピッチサイズ:”が指定できます。

「一つの設定を全てに適用」にチェックすると、“色/レイヤー”全てに同じ設定が適用されます。

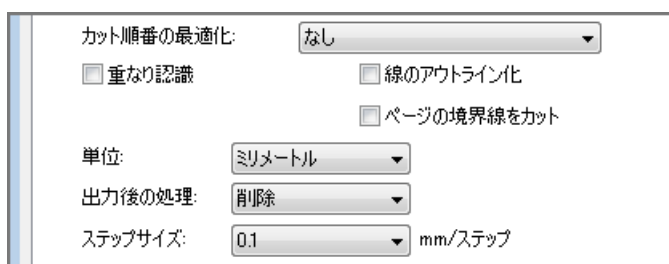
「パス:」の値を設定することで、設定された“色/レイヤー”のオブジェクトを指定回数カットします。

2-2. 詳細設定

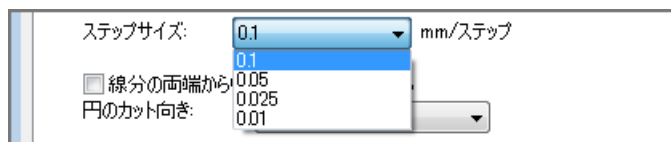
「詳細」タブより「カット順番の最適化」は、“なし”、“速度優先”、“メディアの動きの制限”から選択します。

「重なり認識」は、図形と図形が重なっている場合に重なった部分をカットしたくないときにチェックします。例えば長方形と長方形がクロスしている場合は、クロスしている部分はカットされず、十字の形でカットされます。

「線のアウトライン化」をチェックすると、線の幅を認識して線の周りをカットします。太い線の形でカットしたい場合にチェックしますが、細い線や文字の場合にチェックすると2重にカットされます。

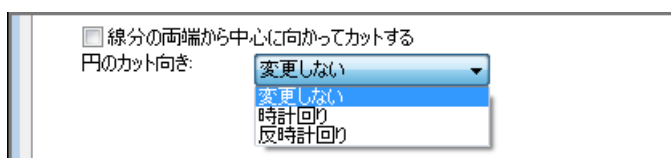


「ステップサイズ」は、プロッターの移動できる最小単位の距離のことです。この値は、“0.1mm”、“0.05mm”、“0.025mm”、“0.01mm”から選択でき、プロッター本体に設定されているステップサイズと等しくする必要があります（プロッターの初期状態は、0.1mmです）。



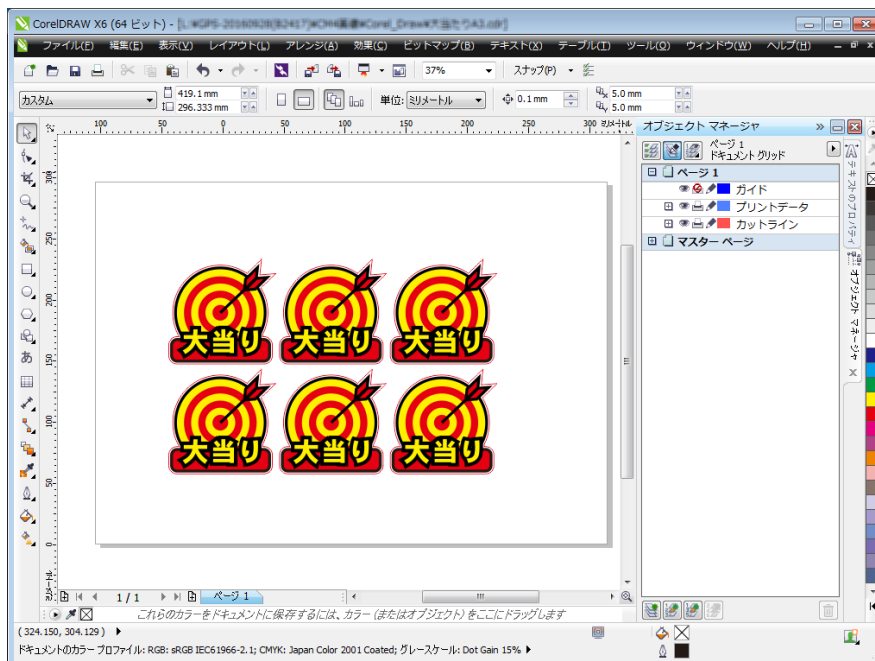
「円のカット向き:」は、円のカット方向を“変更しない”、“時計周り”、“反時計周り”より選択できます。

「線分の両端から中心に向かってカットする」をチェックすると、線分の端から中心に向かってカットします（両端が切り離された直線、曲線に有効）。



3. 自動トンボ読み取りでシールをカットしたい

シールにしたい図形が作成され、既にプリントデータとカットデータの2つにレイヤー分けしてあるものとし、A3サイズでカッティング台紙を使用しない場合の例として説明します。トンボ印刷の設定のために定規とガイドを表示します。

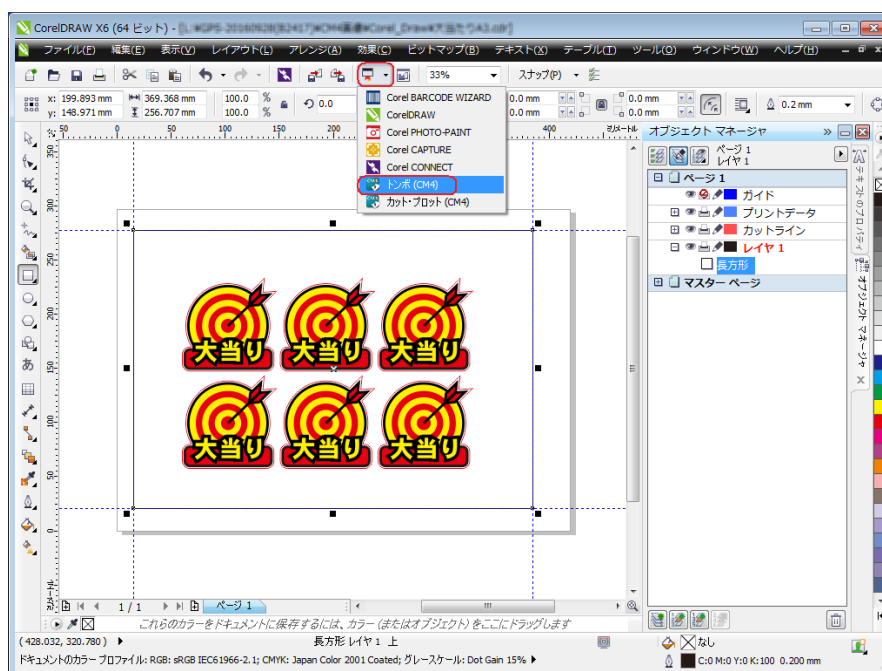


グリットローリングタイプのプロッターの場合、トンボ読み取りに必要なマージンを下記のようにプロッターにセットした状態で左右が 20mm、先端が 15mm、後端が 35mm になるようにガイドを設定し、長方形ツールで図形の周りに四角を描きます。この時、長方形が塗り潰し設定になっていて下の図形が隠れてしまっても問題ありません。

上記マージンは、少し余裕を見ています。フラットベッドタイプのプロッターでは、メディアの端から 4 方向とも 10mm 以上のマージンを取ってください。



「アプリケーションの起動」より「トンボ(CM4)」を選択します。

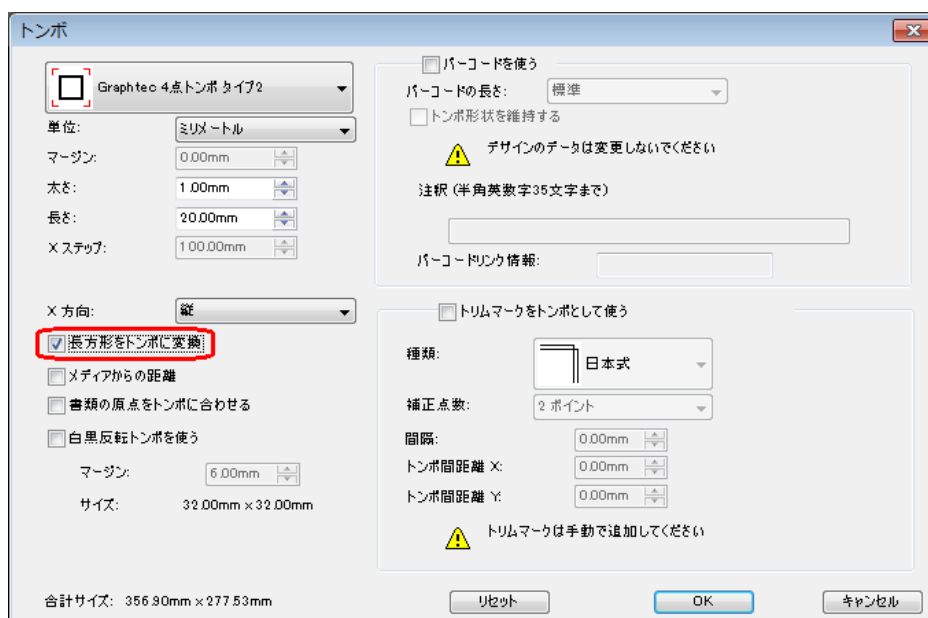


「トンボ」の設定画面が開きますので、トンボパターンを選択します。

(例では「Graphtec 4点トンボタイプ2」を選択)

作成されるトンボの線の太さ (0.3mm ~ 1.0mm) と一辺の長さ (5.0mm ~ 20.0mm) が指定できますが、なるべく初期状態で設定した方が、読み取り時のエラーが少なくなります。

「長方形をトンボに変換」にチェックします (長方形が選択状態でないとグレーアウトしてチェックできません)

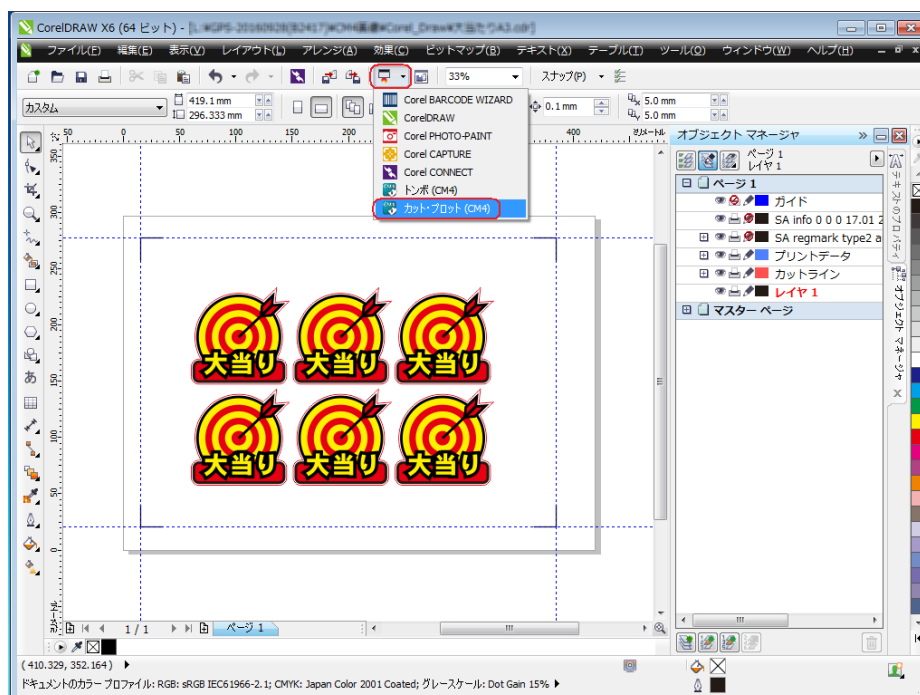


画面の4隅にトンボが表示されます。

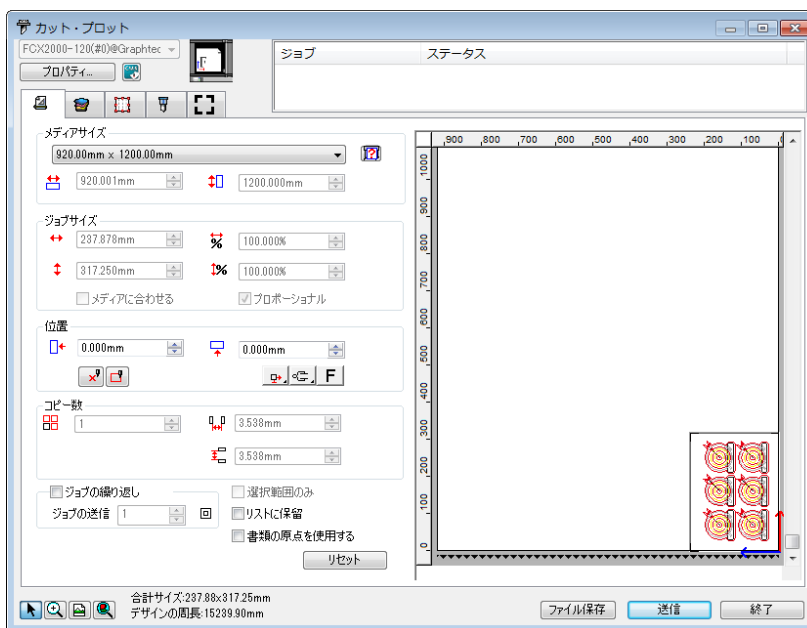


トンボの線の内側または外側の付近に図形が印刷されていると、誤ってトンボとして検出されてしまいますので、トンボの線の付近は図が入らないようにしてください。このトンボを作成してからプリンタにシールを印刷します（印刷が終わってからトンボを含めた図形を変更しますとカット位置がずれますので、変更した場合は再度プリントし直す必要があります）。

「アプリケーションの起動」より「カット・プロット(CM4)」を選択します。



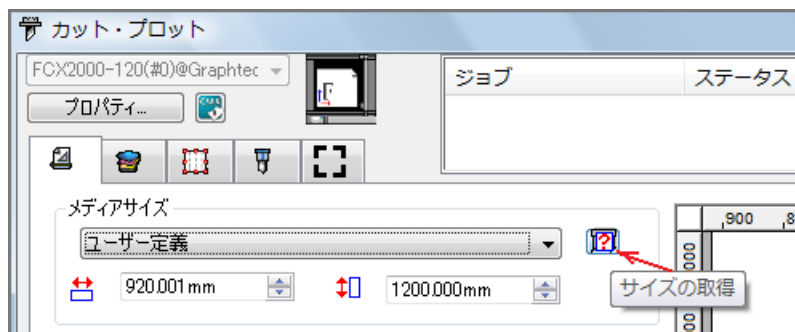
「カット・プロット」と「Cutting Master 4」が立ち上がります。



「Cutting Master 4」は、「カット・プロット」からのジョブを出力します。

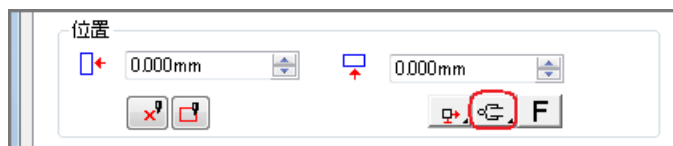
「一般」の中の「サイズの取得」をクリックした時、「メディアサイズ」が「ユーザー定義」に変わり、プロッターにセットされている用紙幅、長さ（ロールメディアの場合は、プロッターに設定されているページ長さ）が表示されます。

フラットベッドタイプでは、プロッターの最大のカットサイズが表示されます。メディアサイズを変更したいときには、「メディア」の中の下矢印をクリックしてメディアサイズを選択します。定型サイズ以外の場合は、「ユーザー定義」を選択し、サイズを入力します。



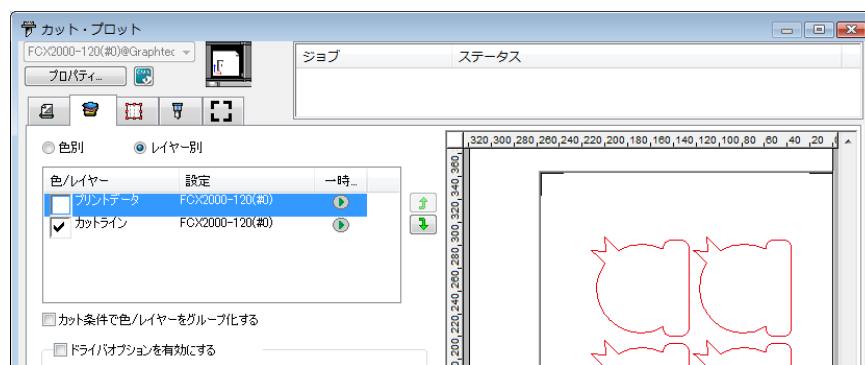
“カッターがサイズ取得に 응답しません”が表示された時は、プロッターと PC が正しく接続されていません。プロッターの電源が入っていて接続されているか確認してください。

「位置」の中の「回転」の設定によりプロッター上でオブジェクトが回転します。プロッターにセットされたメディアの向きに合わせてください。他の設定については、前述「1. カuttingフィルムに文字切りを行いたい」の以降を参照してください。

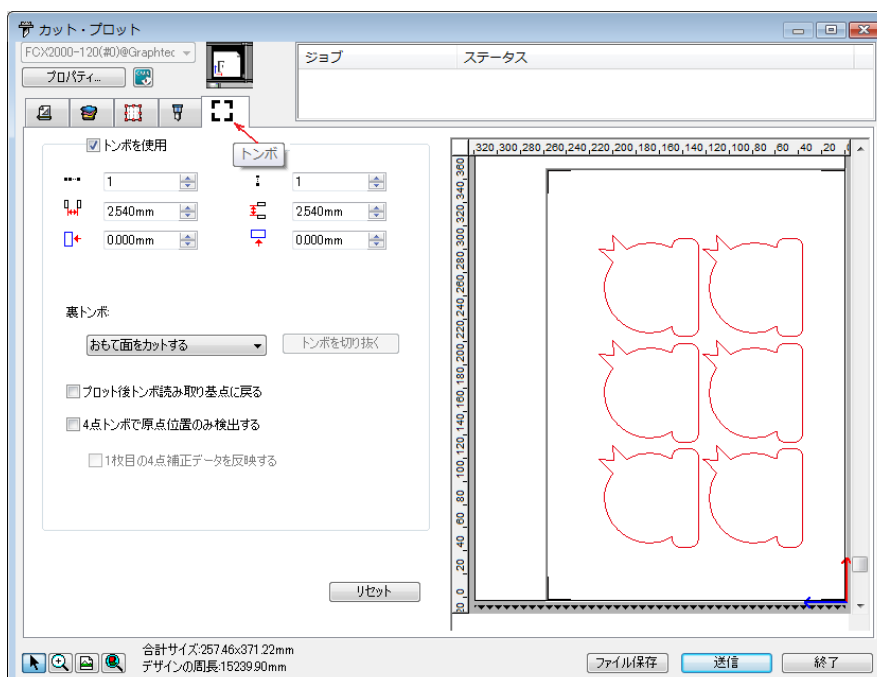


「レイヤリング」タブの中の“色/レイヤー”のチェックにより、カットするレイヤーおよび色の選択を行います。

「ドライバオプションを有効にする」にチェックがされていない場合は、プロッター自体に設定されているカット条件でカットされます。

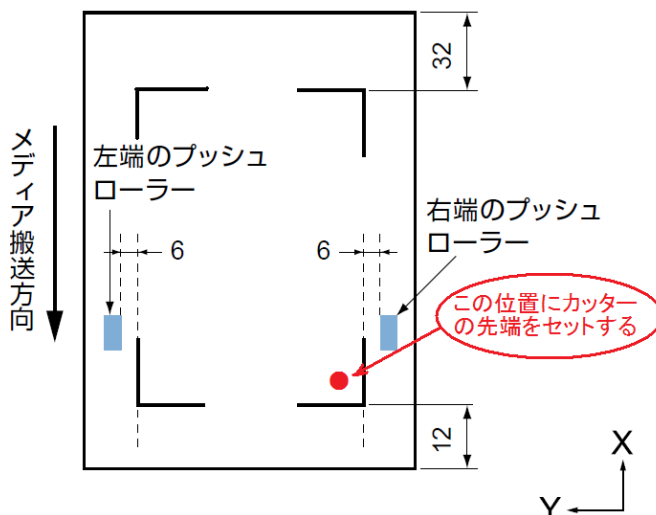


「トンボ」タブを選択して「トンボを使用」にチェックが入っていることを確認します。



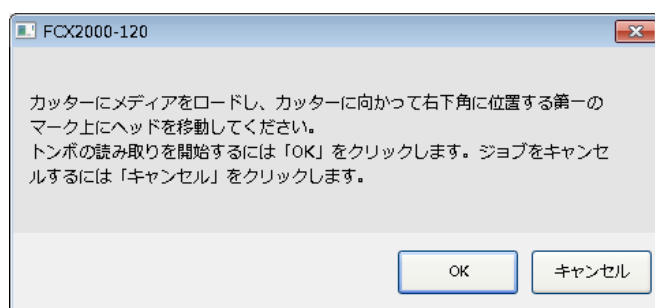
印刷されたシールの向きを合わせてプロッターにセットします。
 グリットローリングタイプのプロッターの場合、図のようにプッシュローラがトンボの線の上に乗らないようにプッシュローラ的位置を調整してセットします。メディアをロード後、ポジションキーでカッターの先端を図のようにトンボの内側に移動させてセットします。

単位：mm



[送信] をクリックすると下記メッセージが表示されますので、プロッターのメディアセットに問題が無いことを確認して [OK] をクリックします。

プロッターにデータが送信され、右下のトンボから順にトンボを検出して行き、全部のトンボが正常に読み取れば画像の周りのアウトラインがカットされます(フラットベッドタイプのプロッターでは、盤面に向かって左下からトンボの読み取りが開始されます)。



「トンボ検出エラー」が発生した場合は、読み取り開始位置が間違っていないか、左右、前後の用紙端からトンボまでの距離が規定のマーゲンであるか調べてください。
 グリットローリングタイプのプロッターの場合、規定のマーゲンになっていても奥側で「トンボ検出エラー」になる場合は、メディアが上側に反り上がっていないか確認してください。メディアが反り上がっている場合は、実際のシート長さより短くカット範囲が読み取られてしまいますので「トンボ検出エラー」が発生します。

以上